

初回面接の実施結果

	対象者	初回面接を受けた者	初回面接実施率
3町の計	1, 860	1, 142	61.4%
健保組合	112	25	22.3%
計	1, 972	1, 167	59.2%

対象者とは、動機付け支援及び積極的支援に振り分けられた者である。

初回面接後の継続保健指導は、現在まで実施中である。

45

プログラム参加への動機付けにつながった要因ー参加者からー

- 求めている時に、自分に合ったプログラムの提示があった
- 生活時間でやりくりできる時間設定だった
- メタボ講演会で参加する気になった
- 初回の面接で参加する気になった
- 家族の後押しがあった

プログラムを継続できた要因

—継続者の意見—

- 自分に合ったプログラム内容だった
- 自分が利用できる時間帯・時間設定だった
- 無理のない目標設定をしたので楽しくできた
- 結果が目に見えてよくなってきた
- 体が軽くなったことを実感できた(約1ヶ月目)
- 知り合いから細くなると誉められた
- 仲間がいた(競争者・成果の共感)
- 家族の応援、一生懸命なスタッフの存在
- 低コストで続けられた

中間評価の事例検討会で得られた参加者の声

47

保健指導実施上の問題点

—初回面接から現在まで—

保健指導実施上の問題点

1. 初回面接

- 腹囲もBMIも基準値を超えていない者が動機付け支援レベルの者2,136人中、1,640人(76.8%)いた。また、同様に積極的支援レベルの者1,248人中、142人(11.4%)いた。
- こういった者に介入する場合、どのようにメタボリックシンドロームに関連付ければよいのか？

49

保健指導実施上の問題点

2. 運動可否判定・同意書

- メタボリックシンドロームの該当者等に対して運動プログラムを提供する場合、プログラム選定に当たって、主治医の運動可否判定が必要ではないか。
- 医師にとっては「可否判定」という言葉は重責を感じる、また、具体的な運動内容や強度、頻度が提示されなければ判断がつかないと言う医師からの声があった。
- また、参加者の同意書も必要ではないか。

50

保健指導実施上の問題点

3. 治療中の者への対応

- 既に治療中で、指示カロリーが出ている者。
「先生にみてもらうからいいです」と言い、話を聞こうとしないため介入しづらい。
実際には十分な運動・栄養指導は行われておらず、薬のみに頼るような状態の者もいた。
- 主治医との連携のあり方を医師会等と協議・調整していく必要がある。

51

保健指導実施上の問題点

4. 事業終了後のフォロー

- 生活習慣の改善をした場合、6ヶ月でも効果があると言われている一方、継続されなかった場合は元の状態に戻ってしまうというエビデンスも報告されている。
- 事業終了後の継続について、その対応を考えながら事業期間中は支援する必要がある。
(例)仲間づくり、キーパーソンの育成

52

ポピュレーションアプローチ

ポピュレーションアプローチと ハイリスクアプローチの連動

パンフレットによるポピュレーションアプローチ

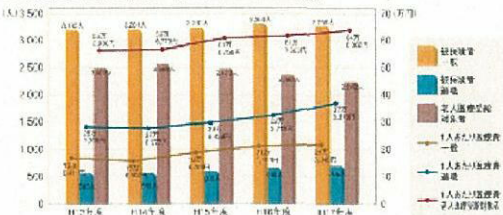
一人一人の健康づくりが大切!

増え続ける医療費、生活習慣病による動脈硬化や臓器症の増加、わたしたちの心や体にも負担が大きくなるばかりです。この問題を解決するためには、一人一人の健康づくりへの取り組みが大きな鍵を握っています。そこで、大多市町の現状を知り、そして存在問題となっている「メタボリックシンドローム」について知って欲しい、そんな思いから、このパンフレットを作りました。是非ご利用ください。

1 大多市町の医療費の現状

大多市町の1人あたりの医療費は、国保一般・退職者および老人医療ととも、毎年増加しています。とくに老人医療費の伸びは著しく、平成17年度では、前と1年間に1人あたり64万円となっています!

●1人あたりの医療費(国保一般・退職と、老人医療費)



2 大多市町ではこんな病気が多くなっています

どんな病気に医療費がもっとも多くなっているかというところ、**高血圧や糖尿病、心臓病などの循環器系疾患**となっています!!



町の医療費の現状

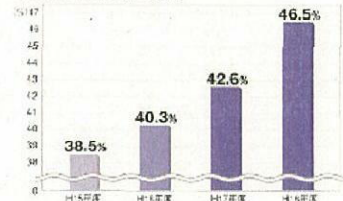
疾病別の構成割合

3 生活習慣病の推移

大多市町の医療費に占める全体の医療費を年々どこにかかると、生活習慣病(循環器系の疾患・糖尿病・高血圧・高脂血症)の占める割合は、毎年増加しています。



●生活習慣病有病者の割合



生活習慣病有病者の割合

4 肥満と生活習慣病との関連について

(平成18年度基本健康診査40歳以上の受診者1,490名の結果より)

●肥満別 要指導者割合



肥満と生活習慣病との関連

高血圧や糖尿病などの循環器系疾患や、糖尿病や高脂血症などの予備群の増加が医療費の増加に大きな影響を及ぼし、また肥満が生活習慣病に深いつながりがある。

心身ともにいきいきと健康に暮らすために、肥満予防をはじめとする生活習慣病予防が重要です!